

平成 28 年度 学校運動器検診（専門医）結果報告

———— あーヤレヤレ、ホッとした報告 ————

鎌ヶ谷市医師会 学校保健担当理事

引田 満

学校保健安全法施行規則の改正により、平成 28 年度から学校定期健診（内科）に運動器検診が導入されました。馴染みのない先生方もいらっしゃると思いますのでその趣旨を述べさせていただきますと、現代の子どもの運動量にみられる二極化現象、つまり連日部活などを通して「過度に運動する子ども」と、休日はもっぱらゲームなどで過ごし、「ほとんど運動しない子ども」の両極端が存在し、このような児童・生徒に顕在（潜在）する運動機能不全をスクリーニングすること…。小児期における早期のケアにより、高齢期以降のロコモティブ症候群の発症を防ぐこと…。これが大義名分、いや目的です。後半の部分は多分に後付けの感が否めません。

この検診の導入が決定したのは前任の畑先生の時で、当時私は一介の校医でしかなかったのですが、養護教諭から、なぜか内科健診に組み込まれることを聞くや、「これは大変なことになる…」と直感できました。校医の先生方の負担増は避け難く、ハンパツはハンパないだろうなど。しかも自分が後任の担当理事になり、実情が把握できるようになるにつれ、これが過去にほとんど前例のない新しい形態の検診であり、対象者は市内で約 1 万人にのぼるにもかかわらず、旗振り役あるいは司令塔の存在が見えてこず、検診のデザインはほぼ自治体（鎌ヶ谷市教育委員会）に丸投げされていることに気付かされ、校医を派遣する医師会の人間として畑先生（「運動器検診がやばいよ！」）とともに大きな危機感を感じたものです。

畑先生から引き継いで鎌ヶ谷市教育委員会、養護教諭部会と何度も協議を重ね、情報を求めて愛媛県まで講習会にも出向き、精査対象者の割合（スクリーニング抽出率）を推計するために、一部の市内小中学校において予備検診・予備調査を実施し、判定基準の設定や事後措置の整備、そして必要書類のほとんどを自前で作成し、約 1 年半かけて手探りで準備を整えました。校医の先生方にはとにかく趣旨を理解していただかなければいけないと思い、医師会主催教習会への出席をお願いしてきました。正直、この時ばかりは先生方からどのような反応が出てくるのかとても不安だったのが思い出されます。

こうした苦勞の甲斐あって、大きな混乱もなく初回の運動器検診を終了する事ができ、内心ホッとしています。その集大成として次に掲げる精査対象者の受診結果を得るに至りました。1 枚足らずの表ですが、私としてはなかなか感慨深いものがあります。この検診の意義については疑問視する向きも多かったことは承知していますし、検診結果を見て、

先生方もそれぞれに色々な感想を持たれるかとおもいますが、直ちにその是非を問うことはできません。そもそもが、将来的に口コモティブ症候群への移行を防げる（医療費も削減できる？）であろうというもっばらの予測に立っている検診なのですから、何十年も先を見ていかなければなりません。肝癌や胃癌の確実な減少（おそらく激減）が見込める小児のB型肝炎ワクチン定期接種化や今後、学校健診に導入される可能性の高いピロリ菌検診（千葉県医師会でも検討中）のような説得力はありません。

さて、結果報告を見てみると、骨端症、特発性側弯症、臼蓋形成不全、腰椎分離症、骨折、筋性斜頸、オスグッドシュラッター病などがこの検診を契機に発見されており、これはこれで短期成果として注目されるべきものと考えます。異常なしを除けば概ね0.7%の有病率となり、長いこと小児科医をやっていますが、このような運動器（整形外科）に関する疫学統計はほとんど見たことがなく、学校保健における貴重な資料だと思います。

今後ですが、まず各校で今回の問題点、反省点についてのアンケート調査を行いましたので、それらを共有し、検討を加え、次回の運動器検診に備え準備をしているところです。保護者に配り、校医の先生方にも記入していただいた「調査票」についても修正が必要と考えていますので、時期がきましたら医師会報やファックスなどで周知していきたいと思っています。最後に、校医を引き受けていただいている先生方に深謝するとともに、今後も学校保健に携わっていただけることを切にお願いする次第です。

平成28年度 鎌ヶ谷市運動器検診（専門医）結果

学校名	診断名	人数	学校名	診断名	人数
鎌小	異常なし	6	中部小	異常なし	3
	両膝成長痛	1		左肩関節捻挫	1
	腰痛症	1		右前腕骨骨折	1
	腰椎椎間板症	2		両踵骨骨端症	1
	左上腕骨外顆骨折後変形治癒	1		左筋性斜頸	1
	両膝部痛	1		左膝オスグッドシュラッター病	1
東部小	踵骨骨端症	2		側弯症（軽度）	1
	右膝足関節痛	1	道小	両足関節挫傷	1
	背部痛	1		両踵骨骨端症	1
	側弯症（軽度）	1		脊柱変形（軽度）	1
	腰痛症	4	鎌中	異常なし	9
	左踵部痛	1		両側白蓋形成不全	1
南部小	異常なし	3		第2腰椎分離症	1
	両足関節背屈制限	1		腰椎側弯症	1
	右上腕骨顆上骨折後内反肘	1	二中	異常なし	1
	腰椎椎間板症	1		腰椎椎間板症	6
西部小	異常なし	3		腰痛症	8
	腰痛症	2	三中	異常なし	2
	左単純性股関節炎	1		腰痛症	3
	柔軟性低下	2		両側オスグッドシュラッター病	1
	両膝痛	1	四中	異常なし	2
	特発性側弯症	2		腰痛症	2
	両下股痛	1		頸肩腕症候群	1
	両踵骨骨端症	1	五中	異常なし	2
	タイトハムストリング	1		両膝内障	1
	腰椎椎間板症	1		右第2オスグッドシュラッター病	1
				偏平足・内反足	1
				筋膜性腰痛症	1
				腰椎椎間板症	2

※複数の病名がついている児童生徒もいます。